

研究課題の名称

不安症を合併する小児の ADHD の検討

研究の目的及び意義

小児の ADHD は、不安、抑うつ、強迫といった情緒障害の合併が一般の児童における発症率より多いとされる。その中で、不安症の併存率は 15～24%で、近年はさらに増加傾向にあると報告されている。また、自閉スペクトラム障害(ASD)を有する患者において、ADHD の合併が不安症のリスクファクターであるという報告もある。しかし、ADHD 児が不安症を発症するメカニズムについては解明されていない。

本研究の目的は ADHD 児における不安症の合併に寄与する因子を明らかにする。

研究対象者の選定方針

小児科一般外来、またはこころと発達の子ども相談外来に受診された患者で、注意欠如・多動症と診断された患者。

研究予定期間承認日（2020年5月14日）から西暦2020年10月31日